

第10回遺伝子組換え実験安全研修会（2018年7月28日 名古屋国際会議場）
参加報告

標記安全研修会（主催：全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会、共催：国立大学法人中国地方バイオネットワーク、後援：文部科学省）に中国地方バイオネットワークメンバーとして運営も兼ねて参加しましたので簡単に報告をします。当日配布された資料を中川が管理しております。ご覧になりたい方は中川までお知らせください。

<プログラム>

- ・ 遺伝子組換え実験計画書の模擬審査
進行：吉識 肇（理化学研究所神戸事業所安全管理室）
- ・ カルタヘナ法について
文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室 廣谷龍輔
進行：畑田出穂（群馬大学生体調節研究所附属生体情報ゲノムリソースセンター）
- ・ 組換えキノコ・カビ・コケの拡散防止措置について
西内 巧（金沢大学学際科学実験センター遺伝子研究施設）
畠山 晋（埼玉大学大学院理工学研究科）
進行：井原邦夫（名古屋大学遺伝子実験施設ゲノム機能学グループ）
- ・ 個別に寄せられる相談事項
永野幸生（佐賀大学総合分析実験センター）
辻井栄作（アステラス製薬株式会社研究本部研究統制部）
田中俊憲（沖縄科学技術大学院大学安全衛生セクション）
進行：田中伸和（広島大学自然科学研究支援開発センター遺伝子実験部門）
- ・ 総合討論
進行：田中伸和（広島大学自然科学研究支援開発センター遺伝子実験部門）

遺伝子組換え実験計画書の模擬審査では、いくつかの実験計画書が提示され、申請者からの説明の後、審査員に扮したパネラーおよびフロアーから問題点を指摘したり討論をしたりという企画でした。模擬実験計画書には判断に迷うことが多い内容、わざと誤った内容なども含まれており、それらについて審査員が指摘し、議論を深めるといった形で進められました。各機関で実際の審査を

行うに当たり大いに参考となる内容であったと思います。実験予定期間が 5 年を超えている申請をどう考えるか、感染動物の不活性化措置として適切な方法は、ウイルスが感染性を有するかどうかの判断、感染受容体を発現させる実験、入手し、未開封の遺伝子組換え生物の扱い、保管フリーザー設置室のレベル、核酸の同定・未同定の判断、などの議論が行われました。各模擬申請について考案者からのポイント説明も行われました。ポジションペーパーなどを見るのが重要との提言もなされました。具体例が用いられているため、非常に理解しやすく有意義な企画でした。

組換えキノコ・カビ・コケの拡散防止措置について、では、アカパンカビを題材にして、各種操作における孢子拡散・残存調査の結果が報告されました。紫外線、消毒用アルコールでの処理により孢子が死滅し拡散防止効果があることなどが紹介されました。今後、カビやコケなどでも検討を行って報告をまとめることになるようです。

個別に寄せられる相談事項では、組換え生物等委員会によせられた質問と回答、DIY バイオ、組換え植物の展示、P1 実験と P2 実験が混在する実験室、バキュロウイルス除去の話題が取り上げられました。バキュロウイルスによって発現させたタンパク質試料について、界面活性剤の NP-40 処理により感染性ウイルスが検出されなくなること、アフィニティークロマト精製によって混入がなくなることなどが紹介されました。

(中川)